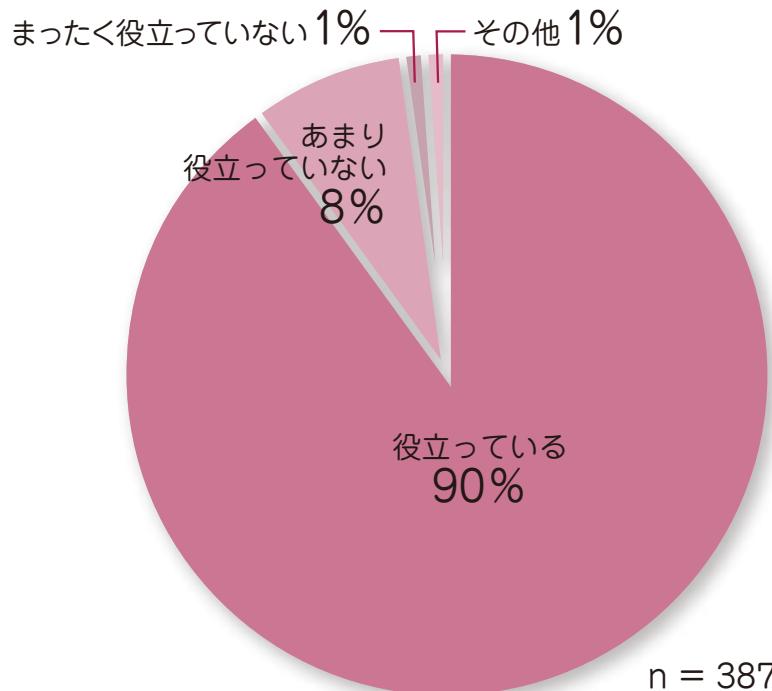


糖尿病ネットワークを通して
糖尿病患者さんに聞きました

Q. SMBGは、ご自身の血糖コントロールに役立っていますか？

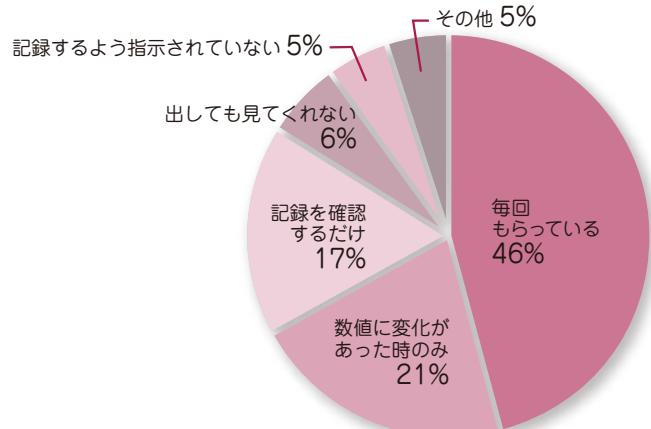


現在、SMBGを行っている患者さんを対象にした本アンケートですが、9割の方が血糖コントロールに「役立っている」との答えでした。活用状況を項目ごとに評価してもらったところ、『活用している』が多かったのは「血糖コントロール状態の把握」92%、「高血糖の把握、予防」83%、「血糖改善へのモチベーション」78%と、現状把握に加えモチベーションツールとして活用されているようです。一方、『活用していない』では、「運動前の体調チェック」64%、「運動療法前

後のチェック」55%、「処方薬の効果のチェック」53%と、半数以上の人人が車の運転や運動療法には使っていない状況でした。

測定結果の記録は、「自己管理ノート」を利用している人が半数、「通院先でもらった記録用紙」が3割、エクセルデータやスマートフォンアプリ、記録ソフトなどを活用している人は2割で、記録は“紙”が主流であること、綿密な解析を行う人は少数であることが推測されます。この記録について、主治医や医療スタッフから「毎回アドバイスをもらっている

Q. 測定記録について主治医や医療スタッフからアドバイスをもらっていますか？(n=387)



る」人は46%で、23%は「アドバイスはない」とのこと。

自由記述では、「一時的な効果より継続して得られるデータが何よりも大切」、「発症当初は何を食べたらいいのか途方に暮れたが、自ら薬局でSMBG用の機器を購入して測定し血糖値の予測がつくようになった」、「モニタリングは食事療法や運動療法のモチベーション維持に役立つ。なぜ糖尿病患者すべてがSMBGをしないのか不思議」など、大変多くの声が寄せられました。

●コメントターー●

鈴木吉彦 (日本医科大学客員教授、HDCアトラスクリニック院長)

SMBGが血糖コントロールのためのモチベーションツールとして活用されている事を確認できたのは嬉しい結果です。患者さんにとって血糖コントロールに役立っているかどうか、医療スタッフ側に自信がないというのは、SMBGを拒否する患者さんもみているからでしょう。少なくとも、自らSMBGを継続している患者の多くは、自身でモチベーションを高めておく事の意義を理解している事を示唆します。記録に熱心な患者ほど血糖変動の意義を考え、生活を調整しています。SMBGがもっと広がれば、モチベーションが高められる患者が増え、新薬が普及するほど、より高い目標を指導できる医療スタッフの役割も必要とされます。

Q. SMBGの活用状況について (n=387)

